

年次報告書 2023

Annual Report



日韓のユースがともに「平和」を考える



目指す未来を言葉にする
ワークショップ



Feature



特集

第21回 日韓ユース・カンファレンス

韓国・ソウルで19名のユースが集まり、
「女性・平和・安全保障」を
一緒に考えました。



ソウル市内
フィールドワーク!

プロフィール

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー /Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。

日本では、24の地域YWCAと37の中学・高等学校YWCAが活動しています。

女性や子どもや高齢者など、弱い立場におかれている人たちの本来の力を取り戻し、共に生きる世界を実現する人材を養成しています。

日本YWCAのビジョン

女性がリーダーシップを発揮し、
人権・平和・環境を大切に作る社会

日本YWCAのミッション

若い女性をエンパワーし、共に社会変革を進めます

日本YWCAのバリュー（大切にしている価値）

1.キリスト教基盤

すべての人は神の前に等しい価値をもつと信じ、常に弱い立場に置かれた者の側に立たれたイエス・キリストの生き方^{なら}に倣って行動します。

2.平和・環境

アジア・太平洋戦争の反省から生まれた平和憲法を活かします。

すべての「核」を否定し、軍事基地を含む暴力のない公正で持続可能な社会をめざします。

3.人権

人種・国籍・宗教・性・出自・年齢などの多様性を互いに尊重し、ジェンダー平等のもとで誰もが自分らしく生きることができる社会をつくれます。

4.セーフ・スペース

会員（ボランティア）が主体的にプログラムを推進し、すべての活動を、多世代協働によって民主的に運営します。常に誰にとっても安全安心な空間をつくり、誰もがエンパワーされる場とします。

目次

特集：第21回 日韓ユース・カンファレンス … 1

若い女性のリーダーシップ養成 …… 2

第68回 国連女性の地位委員会（CSW68）

RiseUp！ファシリテーターになろう！講座
勉強会開催！「韓国フェミニズムとの出会い
～未来の連帯のために」

ジェンダー「出前講座」@山梨

中高YWCAの活動

平和な社会を目指す活動 …… 4

第11回 日韓YWCAカンファレンス

「処理汚染水」をめぐる日韓YWCAユース対話の会

東日本大震災被災者支援活動 …… 5

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

リフレッシュプログラム

セカンドハウスプログラム

国際連帯・アドボカシー …… 6

世界YWCA総会

パレスチナへの連帯と支援

ウクライナYWCA支援

世界YWCA発行物日本語訳発行

声明・賛同

コラム …… 8

CSW参加ユースの声

募金のテーマ・クローズアップ …… 9

「パレスチナYWCA支援募金」を深堀り

寄付報告 …… 裏表紙

第21回 日韓ユース・カンファレンス

「ピースメーカーになろう！」女性×平和×安全保障を考える

日本YWCAは1993年より、韓国YWCAと「日韓ユース・カンファレンス」を共催しています。ユースのリーダーシップと草の根の平和構築を目指すプログラムの様子を報告します。

2024年2月13日～15日の3日間、韓国・ソウルで19名のユースが集い、第21回日韓ユース・カンファレンスが行われました。

1日目は本カンファレンスのテーマ「女性・平和・安全保障（WPS）」と日韓でのフェミニズムとジェンダー葛藤について講演を聴き、一日の終わりには、「かるた」作りやソーラン節で交流の時をもちました。



日韓ユース・カンファレンス参加者

2日目は「戦争と女性の人権博物館」

で日本軍「慰安婦」にされた方々の証言に耳を傾け、日本軍「慰安婦」問題解決全国行動（通称：水曜デモ）に参加。また「女性の政治参加とWPS」に関する講演を聴き、平和構築プロセスへの女性の関わりの重要性を学びました。2日目の最後は、小グループで明洞を歩き、食事や買い物を一緒にし、交わりを深めました。

最終日は、参加者が日韓のユースによる活動を報告し合ったのち、環境活動家による特別講演では、ユース主導の社会運動と共同体での相互ケアの大切さについて共有されました。最後に、今後の日韓の連帯と平和活動をともに考えるための「アクションプラン」を作成・発表しました。次回は2025年、日本開催です。



最終日の集合写真

＊日韓ユース・カンファレンスはピースメーカーズ募金へのご寄付を用いて実施しています。

若い女性のリーダーシップ養成

第68回 国連女性の地位委員会(CSW68)

2024年3月10日(日)～16日(土)
@ニューヨーク

ニューヨークの国連本部で開催された第68回国連女性の地位委員会(CSW68)に、日本YWCAより7名のユースを派遣しました。

派遣者は「日本の若い女性の生きづらさ」についてイベントを独自開催。プレゼンテーションとディスカッションを行いました。40名定員の会場には立ち見の人もあるほどの大盛況ぶりでした。ユースたちの経験

は多くの人の心を動かし、会場はそんなユースたちを応援するような温かい雰囲気にも包まれていました。7名の個性や経験、意見が見事に融合した素晴らしいイベントとなりました。

続きはコラムをお読みください。



国連本部前で



横浜YWCAでの講座参加者

RiseUp ! ファシリテーターになろう！講座

2023年12月10日(日)@横浜YWCA

2024年1月14日(日)@福岡YWCA

参加者:延べ15名

学校、職場、趣味の活動の場など、あらゆる場面で「ファシリテーション」をする機会がある人たちにむけた講座です。「こうであるべき」ではなく、「自分らしさ」を大切にしたい、自分にとっても他者にとっても安心・安全な空間をつくることを目指し、セーフスペース（心身ともに安全が保たれたところ）とYWCAのリーダーシップに焦点を当てた、ファシリテーションの実践を行いました。

勉強会開催！「韓国フェミニズムとの出会い～未来の連帯のために」

2023年9月30日(月)@オンライン 参加者:15名

ユース・ジェンダー小委員会主催イベントとして、講師のチェ・イエリンさんからフェミニズムとの出会いや韓国の女性運動についてお話を聴きました。また、チェさんが制作された女性の人権に関する映画の放映を行い、小グループでのディスカッションを行いました。



ジェンダー「出前講座」@山梨

2024年3月20日(水)@山梨英和中高 参加者:25名

講師やファシリテーターを派遣し、ジェンダーに関する学びをお届けする「出前講座」。3月は山梨英和中高YWCAのメンバー、卒業生のユース、甲府YWCAメンバーなどの参加を得て開催しました。増井さとみさん(名古屋YWCA)を講師に「ジェンダーの視点から『同意』について考える」というテーマでワークショップ。参加者からは「普段考えていることより、もう一つ深いところをいっしょに考えられてうれしかった」などの感想が寄せられました。



上:ワークショップ中の様子

下:ジェンダーについて自分の考えをまとめる

中高YWCAの活動

中高YWCAでは2023年夏、地区ごとの「地区カンファレンス」が行われました。7月28日～30日に関西地区(テーマ:愛と奉仕 参加者:86名)、7月31日～8月2日に東北・北海道地区(テーマ:平和 参加者:16名)、8月4日に関東地区(テーマ:誰もが安心して笑顔で過ごせるために 参加者:63名)と、久しぶりにすべての地区で対面開催となりました。対面できた喜びをお互いに分かち合い、それぞれのテーマについて深める時となりました。



平和な社会を目指す活動

第11回 日韓 YWCA カンファレンス

2023年7月7日(金)～10日(月)@韓国・ソウル 参加者:26名

テーマ:東アジアの平和における女性の役割

目的:日本・韓国YWCAの連帯の強化、WPS(Women, Peace and Security)について意見交換、共同声明発表

日本YWCA・韓国YWCAの代表者が集う「日韓YWCAカンファレンス」は、同年度の日韓ユース・カンファレンスとも連動して「女性・平和・安全保障(WPS)」をキーワードに開催。各YWCAの活動報告と意見交換に加え、フィールドワークではDMZ(北緯38度線付近の非武装地帯)に位置する鉄原郡を訪れました。南北そして民族分



「Women」の「W」サインで記念写真

断の現実を前に、痛みを感じ、それぞれが平和に想いを馳せました。最終日には声明文「東京電力福島第一原子力発電所事故による汚染水海洋放出に反対します」を発表し、現地メディアに向けて記者会見も行いました。韓国YWCAのムーブメントを推し進めるパワーに触発される刺激的な4日間を経て、より活発な日韓YWCAの協働を目指します。

「処理汚染水」をめぐる日韓 YWCA ユース対話の会

2024年1月19日(金)19:00～21:00 @オンライン

参加者:28名(内、日本YWCAユース4名、韓国YWCAユース7名)

2023年に日本政府が放出を開始した「処理汚染水」に関する対話の取り組み。日韓の参加者間での知識や認識、運動への熱量のギャップに気づかされながら、通訳者の協力を得て一人ひとりの想いや考えを伝え、聴きあいました。双方向の対話により、なぜこれほどの違いが生まれるのか、その背景を知ることのできた貴重な時間となりました。韓国YWCAの参加者からも、「日韓間に想像以上に大きなギャップがあることがわかったからこそ、このような機会を継続していきたい」という意見が出されました。



東日本大震災被災者支援活動

日本YWCAは、2011年3月のあの日生まれた子どもたちが20歳になるまで支援を続けると決意して、東日本大震災被災者支援を続けています。2023年も、日々生じる課題と向き合いながら、未来へ寄り添うサポートを行いました。



カー口ふくしまでの活動風景



フードパントリーの様子

YWCA 活動スペース「カー口ふくしま」 延べ598名利用

震災と原発事故という「ひび」から光を見出す

カー口ふくしまは、東日本大震災被災者支援の活動拠点として、主に福島県内に住む女性や子どもたちの生活や、放射線量による不安や悩みに向き合っています。2023年は「処理汚染水」の海洋放出問題を受け、あらためて課題と向き合うことになった年でした。3回開催した「おはなし会」では、地元だからこそその視点で、忘れてはいけない福島を発信しました。

その一方、震災当時子どもだった大学生世代と協働し、子どもやユースの居場所作りや、フードパントリーなどの生活支援活動を行うなど、新たな動きも生まれました。「カー口ふくしま」サポーターならびに東日本大震災被災者支援募金へのご協力が大きな支えとなりました。

「リフレッシュプログラム」：各地YWCAでの被災者支援事業を応援

2023年度実施プログラム数：2

全国の地域YWCA主催事業への補助という形で支援を実施。2023年度は、仙台YWCA主催の映画「原発をとめた裁判長そして原発をとめる農家たち」上映会、神戸YWCA主催の「今の福島を知る」をテーマにした全3回のオンライン講座が開催されました。

家族でリラックスする「もうひとつのわが家」セカンドハウスプログラム

2023年度利用者数：5家族19名（保護者10名、子ども9名）

セカンドハウスは、自宅同様にリラックスして過ごせる家族単位のリフレッシュプログラムです。賛同する皆さまの多大なご協力によって2023年度も無事に開催。また、利用に関する新たな問い合わせが増加しました。

国際連帯・アドボカシー

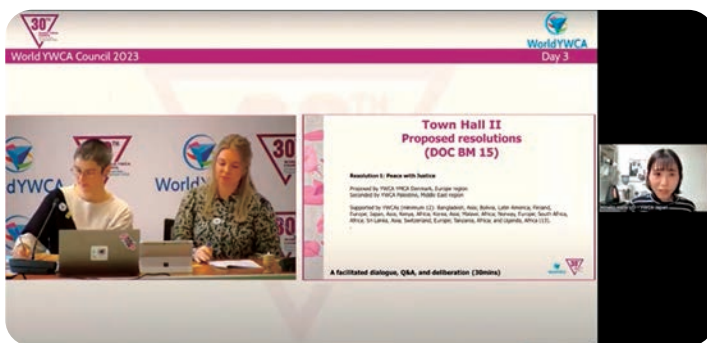
日本YWCAは、世界100か国以上のYWCAが加盟する世界YWCAの一員として、若い女性や少女のリーダーシップを通じた社会変革を目指しています。また、YWCAのネットワークを通じ、災害や紛争の被害を受けた地域へ支援を届けています。

世界YWCA総会

初のバーチャル総会開催

2023年11月27日～12月1日
@オンライン

1898年の第1回大会から30回目となる世界YWCA総会が初めてオンラインで開催されました。日本からの16名を含め、世界71の加盟YWCAから代議員・オブザーバーを含め540名以上が参加。総会では「2035年には、1億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能なYWCA運動を先導します」という共通目標に向けた今後4年間の活動計画と、世界が直面するさまざまな課題に対する行動呼びかけが採択されました。



総会中発言する日本YWCAの参加者



パレスチナへの連帯と支援

日本YWCAは、パレスチナYWCAを通じ、紛争下で生きる女性や子どもたちを支援する活動を行っています（詳細はP.8）。2023年10月以降のイスラエルによるガザ攻撃に際しては声明や要望書の発信を行い、2023年12月には少しでも見える形での発信のため、即時停戦を求める全国一斉サイレントアピールを呼びかけました。

全国から寄せられたサイレントアピール写真

ウクライナYWCA支援

ウクライナYWCAは、ロシアによる侵攻により困難に直面する女性や子どもたち、特に幼児や新生児を持ち困窮する国内避難民の家族を支援しています。物資支援に加え、戦争によるトラウマや病気などの困難を抱える女性たちへの医療支援を行っています。日本YWCAは募金を通じてその活動を支えています。

ウクライナYWCAを通じて支援物資を受け取った避難民女性



世界YWCA出版物日本語訳発行

世界YWCAは、若い女性のリーダーシップ・トレーニングのためのツールとなる書籍を発行しています。日本YWCAはボランティアの協力を得て日本語版を発行しています。



『若い女性の変革をもたらすリーダーシップのためのグローバル・ライズアップ (Rise Up) ガイド』



『世界で活躍する若い女性リーダーたちの物語』



『私たちは立ち上がり、リードする: 世界YWCAによる若い女性主導のフェミニスト・コンサルティング方法論ガイド』

日本語版は日本YWCAウェブサイトからダウンロード・購入できます



声明・賛同

- 「入管難民法の改悪に抗議し、難民・移民と共に生きる教会共同声明」に賛同(6/30)
- 「ALPS 処理水」の海洋放出に反対し、民主的で誠実な対応を求めます」声明(8/22)
- 「非正規滞在者に対する人道的な在留特別許可を求める」声明に賛同(8/23)
- 「あらゆる暴力の即刻停止と、パレスチナへの軍事占領の終結を求めます」声明(10/11)
- 「イスラエル・パレスチナにおける武力行為の即時停止への働きかけを求めます」に賛同(10/13)
- 「現在ガザ地区で起こっているジェノサイド(大量虐殺)を止める報道を！」声明(10/22)
- 「2024年1月28日の麻生太郎副総理の発言に対し、強く抗議します」声明(2/3)
- 「日本政府による UNRWA への資金拠出一時停止の撤回を求めます」に賛同(2/5)
- 「ラファハおよびガザ地区への攻撃の即時中止と永続的停戦を求めます」声明(2/16)
- 「安全で、手頃な価格で、気候に優しいエネルギーをすべての人に」に賛同(3/14)

CSW 参加ユースの声

CSW 参加中は、独自イベント主催のほか、国連本会議傍聴、他国のYWCAや女性団体、国連機関が主催するイベントへの出席など、さまざまな機会があります。ユースたちの経験を振り返ってみましょう。

“ 日本YWCAユースで主催したパラレルイベントは、大成功だったと感じています。ひとつは、発表を行うユースメンバーそれぞれが最も伝えたいことを伝える場にできたからです。次に、タイトなタイムスケジュールのなか予行演習通りに実施できたからです。そして、グループワークではグループに偏りなく、どこのグループも双方向的な議論ができたからです。

今回のユースメンバーは年齢や背景のバラエティーに富んでいました。みんなで毎日のように熱く議論し、学びをさらに深めることができたと思います。素直で、情熱と向上心のある素晴らしいメンバーと出会えたことをとても嬉しく思います。(東京YWCA A・K) ”



パラレルイベント終了後、参加者たちと記念写真

“ パレスチナYWCAのイベントに参加し、現在のパレスチナの状況について理解を深める貴重な機会を得ました。



国連本部でCSW開会の本会議傍聴中

イベントでは、パレスチナの人々が直面している厳しい現実が生々しく語られました。特に衝撃的だったのは、教会が爆破され、身近な家族を失ったという参加者の体験談です。平和であるはずの礼拝の場が攻撃の対象となり、大切な家族の命が奪われるという痛ましい出来事に、言葉を失いました。

私たちにできることは限られているかもしれませんが、パレスチナの現状を多くの人々に伝え、理解を深めていくことが、平和への第一歩になると信じています。(東京YWCA Y・S) ”

* CSW 派遣はピースメーカーズ募金へのご寄付を用いて実施しています。

パレスチナYWCA 支援募金を深掘り

パレスチナYWCA(The YWCA of Palestine)は1893年に活動を開始し、現在に至るまで女性たちのエンパワメントと平和の実現に取り組んでいます。日本YWCAは1990年代よりパレスチナYWCA支援に関わる活動を開始し、さまざまな形でパレスチナとつながってきました。

● 難民キャンプの幼稚園支援

1948年、シオニストの軍事組織によって500以上の村が破壊・占拠され、1万人以上が殺害され、奪われた土地にイスラエルが建国されました。今なお、難民となったパレスチナの人々は故郷に帰ることができず、多くの人が数世代にわたって難民キャンプで生きてきました。パレスチナYWCAは、子どもたちの心身のサポートのため、Aqbet Jaber（ジェリコ県）とJalazone（ラマラ県）の難民キャンプで幼稚園を運営し、軍事占領下で生きる子どもたちがクリエイティブに学び、健康に育ち、自信を育む場をつくっています。



難民キャンプで運営する幼稚園の子どもたち

● オリーブの木キャンペーン

パレスチナYWCA・東エルサレムYMCAの共同プロジェクト「Joint Advocacy Initiative (JAI)」は、ヨルダン川西岸地区の農家にオリーブの木を届ける「オリーブの木キャンペーン」を実施しています。パレスチナの人々の生活に深く根差すオリーブを通じた、非暴力かつ世界中の人が寄付により参加できる方法で、現地の状況を広く伝え、雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかっています。2023年10月以降、過酷さが増す状況の中でも植樹を続け、未来への希望を生かし続けています。



ナブルス地方に住む女性。入植者に破壊されたオリーブ畑に、新しく50本のオリーブの木を植えることができた

日本YWCAはこの「オリーブの木」キャンペーンを支援しています。3000円のご寄付で1本のオリーブの苗木をパレスチナに届けることができます。2023年には309本の苗木を届けることができました。

寄付報告

2023年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。
日本YWCAは、今後も平和で誰もが尊重される社会に向けた、女性たちの主体的な活動を支援していきます。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

寄付のご報告と募金の種類

ピースメーカーズ募金	1,885,877 円	平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。
平和教育寄付	150,000 円	「ひろしまを考える旅」などの平和教育プログラムに用います。
東日本大震災被災者支援募金	916,615 円	被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。
「カー口ふくしま」サポーター	497,500 円	東日本大震災被災者支援事業の一つ「カー口ふくしま」を支えます。
賛助費	1,464,500 円	日本YWCAの活動全般を支えます。 [一口年額] 3,000円／5,000円／10,000円
災害時支援募金	806,408 円	国内外の緊急支援活動に用います。
オリーブの木キャンペーン募金	918,000 円	一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、お名前のローマ字表記をお知らせください。
パレスチナYWCA支援募金	1,689,042 円	パレスチナYWCAが難民キャンプで運営する幼稚園の支援に用います。
ウクライナ支援募金	1,069,638 円	現地の女性や子どもたちへの経済的・心理的支援活動に用います。
ビルマ/ミャンマー支援募金	184,834 円	平和を目指す現地の市民活動を支援します。
能登半島地震被災者支援募金	670,404 円	現地で被災者支援活動を実施するACT ジャパン・フォーラム、ならびに日本YMCA 同盟に送金しました。(受付終了)

合計 10,252,818円

募金方法 日本YWCAへの募金/寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

- > 銀行振込 三井住友銀行 飯田橋支店 普通預金 1198743
(口座名) 公益財団法人日本YWCA
ゆうちょ銀行 〇一九支店 (ゼロイチキュウシテン)
当座預金 23723
(口座名義) 公益財団法人日本YWCA
- > 郵便振替 00170-7-23723
(加入者名) 公益財団法人日本YWCA

Eメールで(郵便振替は通信欄で) ①募金の種類、②ご住所、③お名前を、オリーブの木キャンペーン募金の場合は④お名前のローマ字もお知らせください。(税額控除の書類、オリーブの木証明書を送付します)

> クレジットカードで募金

QRコードからアクセスして、クレジットフォームを通じてご寄付いただけます。

クレジットカードで募金
QRコード



> 賛助員になってください!

「賛助員」は、費用面でYWCAの活動を支えることができるサポーターです。女性だけに限りません。詳しくはQRコードから日本YWCA ホームページ「会員・賛助員について」をご覧ください。

日本YWCA ホームページ
会員・賛助員について



公益財団法人 日本YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室
Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp
Website: <http://www.ywca.or.jp>